

原 著

SPF 豚の経済性について第一報

中田 誠* 辰己英郎* 大本健路*
 尾崎道雄* 安藤 等* 城戸武夫*

はじめに

現在，養豚経営の生産性阻害要因である慢性疾病（SEP, AR, TP, SD）対策と，飼養効率向上による経営安定ならびに抗生物質残留等の

心配のない豚肉の生産と言う面から注目されている SPF 豚の養豚場が管内のA町に設立された(図1)。

以来，日が浅く十分な経済性を論ずることはむづかしいが，現在までに調査し得た若干の知

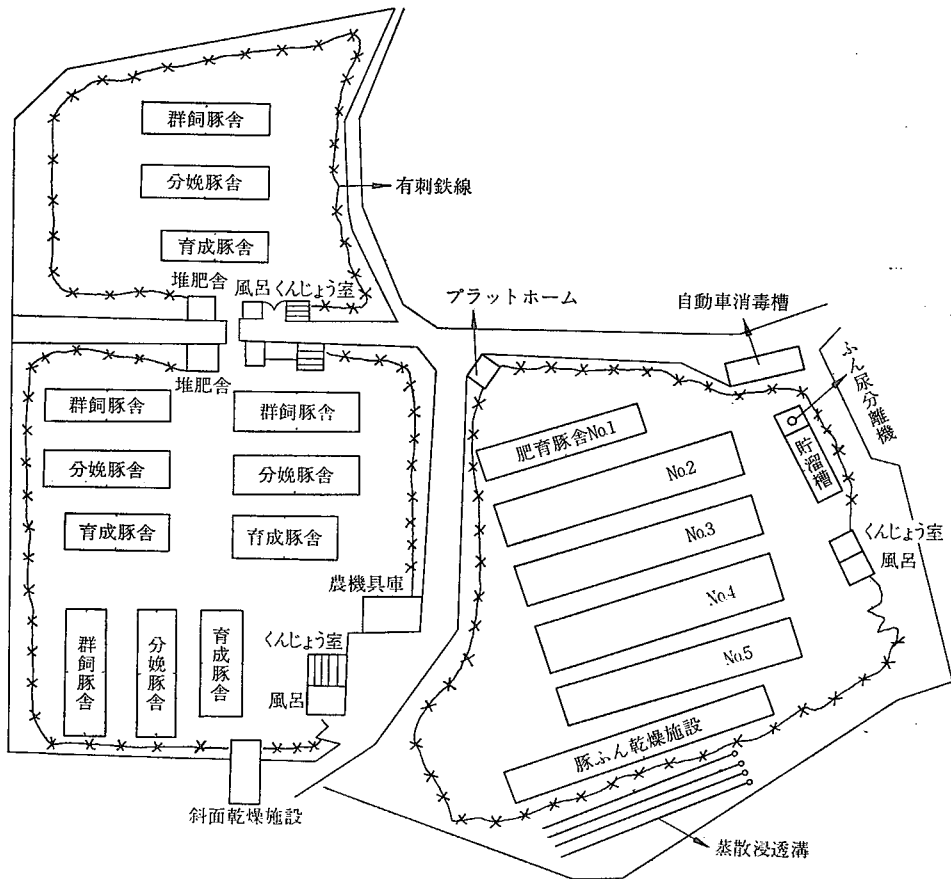


図1 SPF 養豚団地

* 八幡浜家畜保健衛生所

表1 SPF 養豚場の概要について

設置年度	補助事業名	事業主体	事業内容	事業費 (千円)	補助金 (千円)	自己負担金 (千円)	備考
49	団体営畜産経営環境整備事業	A 町農協	用地造成 1,600m ² 家畜排泄物処理施設 その他	75,175	36,928	38,247	
50	地域畜産振興補助事業	A 町農協	肥育豚舎 5 棟 繁殖豚舎 4 棟 分娩豚舎 4 棟 育成豚舎 4 棟 その他	134,023	55,900	78,128	繁殖豚経営農家 4 戸 74 頭規模 肥育豚経営農家 1 戸 1,000 頭
計				209,198	92,828	116,370	

表2-1 繁殖成績 (Secondary SPF)

(S. 51. 5~11月末)

農家 (No.)	子飼 取育 雌頭 豚数 (頭)	分娩 母豚 数 (頭)	産子の状況					流発 早生 死状 産況 (頭)	離乳 頭 数 (頭)	育 成 率 (%)
			産子 総数 (頭)	一産 腹子 平均数 (頭)	異常子豚の発生状況					
					黒子 (頭)	白子 (頭)	その他 (ダ ンス病) (頭)			
1	74	75	735	9.8	19	12	151	25	528	71.8
2	72	71	715	10.1	25	1	93	39	557	77.9
3	72	70	630	9.0	10	0	48	10	562	89.2
4	72	76	726	9.6	8	3	92	8	615	84.7
計または 平均	290	292	2,806	9.6	62	16	384	82	2,262	80.6

表2-2 発育成績 (CM, SPF 豚)

農家	子出 荷頭数 (頭)	豚 30 kg 到達 平均日齢 (日)	1日平均 増体量 (g)	飼料要求率 (FC)	飼料消費量 (kg)
1	205	73	448	2.3	49.7
2	324	75	436	2.4	51.8
3	312	72	459	2.3	48.8
4	341	73	458	2.3	50.5
計または 平均	1,182	73.3	450	2.3	50.2

見を中間報告する。

繁殖, 発育および肥育成績

繁殖成績は, 分娩頭数 292 頭で, 産子総数 2,806 頭, 一腹平均 9.6 頭であった。また黒子, 白子, ダンス病, その他流早死産等により 544 頭が死亡したため離乳頭数は 2,262 頭, 一腹平

均 7.74 頭で育成率 80.6% と低い成績となった (表 2-1)。

子豚の初出荷は 8 月で, 11 月末まで 1,182 頭出荷している。SPF 豚の 30 kg 到達目標日齢を 70 日にしているが, 本養豚場では, 73.3 日と 3.3 日長く, また飼料消費量は 50.2 kg で SPF 豚標準飼料給与量 46.8 kg よりも 3.4 kg 多く

表 3 SM, SPF 豚肥育成績

(51. 11. 23~12. 17)

肉豚出荷 年月日	出荷 頭数	素豚導 入時平 均体重 (kg)	出荷時平 均体重 (kg)	出荷 平均 日 齢 (日)	増 体 量 (kg)	飼 料 消 費 量 (kg)	飼 料 要 求 率 (%)	枝 肉 平 均 重 量 (kg)	枝 肉 歩 留 (%)	枝 肉 格 付 け					
										上		中		並	
										頭数	%	頭数	%	頭数	%
51. 11. 23	16	31.6	90.3	109	58.7	184.8	3.10	64.8	71.8	11	68.8	5	31.2	0	—
51. 12. 13	69	29.7	97.3	121	67.6	192.8	2.85	66.0	67.8	51	85.0	6	10.0	3	5
51. 12. 17	59	30.8	97.8	118	67.0	188.4	2.82	66.6	68.1	46	77.9	8	13.6	5	8.5
計または 平均	135	30.7	95.1	116	64.4	188.7	2.93	65.8	69.2	108	80.0	19	14.1	8	5.9

表 4-1 一般養豚経営との比較

区 分	哺 育 期				子 豚 期			
	一 腹 平 均				30 kg 到達日 齢 (日)	飼 料 消 費 量 (kg)	飼 料 費 (円)	衛 生 費 (円)
	産 子 数 (頭)	事 故 頭 数 (頭)	離 乳 頭 数 (頭)	育 成 率 (%)				
SPF	9.6	1.86	7.74	80.6	73.3	50.2	4,613	862
一般 (B 地区)	98.9	1.31	8.58	86.8	83.0	48.8	4,629	1,062
差	0.29	0.55	0.84	6.2	9.7	1.4	16	200

(注) 1. 飼料給与方法は、一般 (B 地区) は制限給餌であり、SPF 養豚は不断給餌である。

2. 飼料費は、実質給与を積算したものであり、B 地区の場合、ミートミルクを使用しているので費用は高くなっている。

消費している。これはダングス病の発生によるものと思われる(表 2-2)。

11月23日から12月17日までに出荷された135頭の肥育成績は、出荷到達平均日齢116日、飼料消費量188.7kg、増体量64.4kg、飼料要求率は2.93であった。

上物枝肉格付率は80%とSPF豚の目標上物格付率に達していた。また導入後の飼育期間を約100日としていたが、本養豚場では肥育前期の発育がよすぎたため、厚脂予防対策として給与飼料を減量したため肥育期間は116日となり、育成期間の75日を加えると出荷日齢は191日となった(表 3)。

一般豚との比較

繁殖成績をB地区の一般養豚と比較した場合、一腹当りの産子数は0.29頭少なく、事故頭数はダングス病発生のため0.55頭多くなった。したがって離乳頭数は0.84頭少なく育成率は80.6%で6.2%低い結果となった(表 4-1)。

SPF豚の肥育成績を一般(B地区)と比較すると、飼育日数は7日、飼料消費量40.3kg、飼料要求率0.57%少なく、したがって飼料費は1,492円安く、衛生費は580円の差となった。枝肉歩留は0.9%程低かったが、枝肉上物格付合格率は13%程高い成績となった(表 4-2)。

経済性について比較してみると、12月中旬の大阪相場により枝肉の格付率よりみた枝肉平均単価は551円で、一般(B地区)のものより7.5円高く、一頭当りの平均枝肉価格はSPF豚で36,262円、一般豚は37,237円であった。

SPF養豚場は場内一貫生産、また一般は地域内一貫生産であるので、子豚取引契約を結んでおり、素豚費を17,950円とした場合、SPF養豚場の一頭当りの平均肉豚生産必要経費は33,173円で一般より2,374円低かった。したがって一頭当りの平均所得は非常に悪い相場であるにもかかわらず3,089円であり、一般に比べて1,399円の利益差となった(表 5)。

表 4-2

区 分	肥 育 期									飼料費 (円)	衛生費 (円)
	飼 養 日 数 (日)	1頭平均 増 体 量 (kg)	飼 料 消 費 量 (kg)	飼 料 要 求 率 (%)	出 荷 時 体 重 (kg)	枝 肉 留 留 (%)	格 付 合 格 率				
							上 (%)	中 (%)	並 (%)		
SPF	116	64.4	188.7	2.93	95.1	69.2	80	14.1	5.9	13,858	390
一般(B地区)	123	65.3	229	3.51	97.7	70.1	67	25.0	8	15,800	970
差	7	0.9	40.3	0.57	2.6	0.9	13	10.9	2.1	1,942	580

表 5 肥育豚の経済性の比較

区 分	出 荷 時 平 均 体 重 (kg)	枝 肉 重 量 (kg)	格 付 率 よ り み た 枝 肉 平 均 単 価 (円)	1 頭 あ た り 枝 肉 単 価 (円)	必 要 経 費						所 得
					素 豚 費 (円)	飼 料 費 (円)	衛 生 費 (円)	償 却 費 (円)	そ の 他 の 経 費 (円)	計 (円)	
SPF	95.1	65.8	551.1	36,262	17,950	13,858	390	820	155	33,173	3,089
一般(B地区)	97.7	68.5	543.6	37,237	17,950	15,800	970	670	157	35,547	1,690
差	2.6	2.7	7.5	975		1,942	580	150	2	2,374	1,399

表 6 SPF 養豚場における問題点とその対策

区 分	問 題 点	対 策 お よ び 改 善 指 導 事 項
衛 生 上 の 問 題 点	1. ダンス病の発生 発生頭数 1,139 頭 死亡頭数 255 頭	<ul style="list-style-type: none"> 母豚に対するビタミン剤の飼料添加給与 コンドロイチン、ビタミンB₁製剤およびγ-グロブリン剤等を使用して治療した結果多少の効果が見られた。 粗飼料（緑飼）の給与
	2. 胃潰瘍の発生 繁殖豚の死亡頭数 3 頭 肥育豚の死亡頭数 15 頭	
	3. 特定疾病（SEP, AR, TP, SD）の感染防止の持続	<ul style="list-style-type: none"> 畜舎、運動場の定期的消毒の実施 一般豚群と隔離管理 管理者以外の養豚場内立入禁止および内外部間の車輛、人の交通遮断 予防注射の励行 SPF 定期検査
そ の 他 の 点	1. 飼料給与（適正給与）の方法 2. 飼養管理の困難性 3. 繁殖豚の更新問題	<ul style="list-style-type: none"> A地区清浄豚普及推進協議会の各構成機関と協力し、諸問題に対する対策および改善指導を実施する。

考察およびまとめ

SPF 豚の経済性について調査した結果、51年11月から肉豚出荷が始まったばかりで十分な経済性を論ずるのはむずかしいが、一般の飼育方式と比較して SPF 豚の優位性が十分に認められたが、表 6 のとおり幾多の問題点が提起

されたので、それについて対策および改善指導につとめた。

今後は、A地区清浄豚普及推進協議会の構成各関係機関と一致協力し、総合的経済衛生対策を推進し、SPF 養豚経営安定化のため問題解決にありたい。